

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 26 日

事業所名 子どもの家療育クラブ

環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	1	1.利用人数や活動内容によって、教室を交代したりリテックなども利用している。 2.子どもたちが怪我をしないように確認をしながら活動を行うように心がけている。 3.人数に対して部屋が狭く感じるグループがある。 4.部屋広さに応じて、集まりで座る位置や物を置く位置などを変えている。 5.広いスペースで活動したいときはプレールームを利用している。	利用定員に対する配置基準を十分に満たす確保はできている。療育活動を行うにあたって改善工事を行い、各部屋が独立した形になっている。職員が動きや活動の目的に合わせた環境設定になるよう、物の配置や部屋の使い方については定期的に検討を行っている。活動内容によってプレールームを使用する時間帯なども朝の打ち合わせで確認を行い、子ども達がスムーズに活動に参加できるように工夫している。
	2 職員の配置数は適切である	14	1	1.利用時の状況に応じて足りないと感じる時がある。 2.人数が少ない時でも子どもの状態に合わせて職員配置をさせていただいて、子どもたちに合わせた活動に取り組む事ができています。	児童発達支援(センター型)は様々な厳しい基準があります。職員の配置においては、基準を満たすとともに、基準以上の職員配置が可能となるよう運営しております。主に保育士を配置しているが、心理士や看護師、環境整備職員など多様な専門職員を配置することにより、業務やサービスの質の向上に努めています。医療的なケアが必要な児童などのニーズが年々高まりつつある為、配置基準に加えて安全確保や質的な面で適切な配置ができるよう、毎月見直しを行い必要に応じて看護師を配置するようになっています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13	0	1.基本部屋の構造だが、重身児の部屋はクッション性のあるシートを張っている。	クッション性のあるシートは長時間より冷たくならないため、四つ違い移動の子ども達に配慮した構造になっている。事業所の各所で視覚提示にて見分けやすい工夫、また子ども達の集中を妨げないよう、室内から外が見えないよう、すりガラスシートを張ってたり、外部からもマジックミラーにすることで活動が見やすい部屋も確保できている。(全部屋がマジックミラー対応でない為、今後検討していく。)
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14	1	1.ハセッパー水による噴霧器を常に活用し、適宜、拭き掃除等も行っている。 2.暖房が効かない部屋もあるが修理等できればと思いつている。 3.活動によって、連携を取りながら使用する部屋を決めている。(プレールームを使うなどの連携) 4.廊下や整理整頓 5.重心が高いグループでは、床をより丁寧に掃除するよう掛けている。 6.カウンターなども定期的に拭き掃除している。	上記にもあるが、重身児のニーズが高まっている事や感染症予防への対策として衛生面には今まで以上に十分に配慮し、清掃、消毒を徹底している。今後も継続して清潔を確保するように努める。毎月の安全点検でエアコンフィルターの掃除や運転点検を行っている。異常があった場合は修理を行っている。職員同士で連携をとり使用する部屋の時間帯等を把握しておくことで移動の際の目配り、よりスムーズな活動への導入など行っている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	12	0	1.毎日、朝の打ち合わせ、活動後の振り返りの時間を設けて児童の情報把握だけでなく、職員の業務確認を行うことで内容の分担がスムーズに行われている。	業務改善に向けて課題点を職員全員が把握できるように朝の申し送りにて確認を行っている。その際パス送達等不在の職員にも伝え漏れのないよう記録に残すことで全員が確認をされるように工夫している。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14	1	1.保護者からご意見のあった内容は打ち合わせ等で職員へ周知し、改善に努めている。	保護者向け評価表は保護者の皆様の協力を得てアンケートを行い、評価・公表を実施している。意見のあった内容については職員への周知を行い、早急な改善と保護者への対応に努めている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	0		自己評価表や保護者向け評価表をホームページにて公表している。結果を踏まえて事業所及び支援の質の課題点を明確にし、PDCAサイクルに基づき、一つ一つの課題を検討している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	0	1.来園指導の際にご指導をいただいています。 2.まだよくわかっていない。	第三者による外部評価については法人本部にて確認後、現場へ周知するよう準備をすすめています。
適切な支援の提供	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	0	1.様々な内容の研修があり、情報共有の場ともなっていると思いつている。 2.毎月、園内研修を開催している。 3.研修を受けさせてほしい研修を深めさせていただいています。 4.毎月の園内研修などで職員間の情報共有をしている。(児童についてや、看護部、栄養部含めて) 5.園内研修は、自分にとって学びの場になっています。 6.研修の中で学んだことも振り返りや新しい発見をすることができています。 7.定期的な園内研修を実施し、情報共有や共有に努めている。	今年度は新型コロナウイルス感染予防のために法人全体での集金の難しさがあったものの、毎月の園内研修にて様々な視点からの学び機会を設けることができた。(看護部より感染症予防について、給食室栄養士よりアレルギー対応について等)。療育クラブには専門職配置もあり、受け身の研修ばかりでなく自発的に研修を行えるよう、各月ごとで担当を分ける等の工夫をしている。自己研鑽に大きくつながっていると感じる。社会情勢が落ち着いた頃には外部研修での積極的な参加も行っていきます。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	0	1.同じグループに入る職員間で課題点やできる様になった事など紙面で確認している。 2.アセスメントシートを用いて職員間で話し合いを行い、支援計画を作成することが出来ている。	子どもや保護者の思い、子どもの発達のニーズ(課題)を的確に把握するため、アンケートを実施し、アンケートをもとに面談を行っている。段階を経て支援計画を作成するようにしている。また、課題設定が高くなりすぎないよう、外部機関からの所見や園内で実施している発達検査(客観的指標)を用いてその結果を計画に反映させる体制を整備している。各専門職によるアセスメントを行い、適切な計画を作成できるように努めている。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	0		心理士による各種発達検査を行うことに加え、今年度からアセスメントシートの活用を行い、より公正なしようきょうはあがけるようにしている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14	0		これまでも適宜取り組んできていますが、各項目ごとに支援目標の設定により保護者にも外部機関にもわかりやすい計画の内容になっています。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14	0	1.打ち合わせで個別の支援計画を確認するようにしている。	支援計画をもとにグループ活動の設定、子どもへの適切な声かけを重視しています。計画の内容が支援の基本となるため、打ち合わせでケア記録から支援計画の確認をするよう周知しています。子どもの成長を見守り、計画を適宜見直しを行っています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	13	1		グループの担当者が主体となって活動プログラムを検討していますが、複数の職員配置により、様々な側面からの見立てを行うことで活動内容が実現している。大まかな活動内容については毎月話し合う場を設けて皆が意見が言えるよう工夫している。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14	0	1.固定化しないように、他の職員に活動や内容を聞き、自分の保育に生かせるように意識はしている。 2.毎回、話し合いで毎月の活動がよく考えられていると思う。 3.その週のイベントなどに合わせて活動に取り組むようにしています。 4.グループの職員と相談しながら活動内容を工夫している。	子どもたちの育ちに必要となる要素を選びの中に入れ、同じ遊びでも段階的に行うことができるようにグループの編成を行っている。子どもたちが意欲的に取り組める内容を意識している。
	16 子ども状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	13	0		小集団の活動基本として、自由遊びの時間や水曜日と金曜日の一日登園(9:00~14:00)の時間等で個別の活動を適宜行っている。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	0	1.朝礼で毎朝確認しています。 2.活動の流れや子どもの状況など細かく確認してから活動に入るように心がけています。 3.同じグループに入る職員が朝バスなどに乗る際、十分な打ち合わせができない時もあるが詳しく行う様にしている。 4.バスに乗っていきなりバスの乗降になることもあるが、できるだけ打ち合わせをしっかりと行うようにしている。 5.必ずミーティングを行い、連絡帳などの情報共有を行ってから業務に入るように努めている。 6.グループごとに毎朝活動内容や個別に注意することなど共有している。	朝の申し送りにて、職員全体に活動プログラムの周知を行っている。より丁寧に打ち合わせを行いたいところではあるが時間が追われてしまいう現状もある為、基本グループへの配置職員は曜日で固定ができるように工夫している。そうすることで前回の反省を踏まえた上で活動に取り組むことができ、共通意識が持ちやすくなっていると感じる。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	0	1.振り返りで気づいた点を日案に記入し、次回の活動で確認できるよう、各グループごとで日報を保管している。 2.運営日でも同じ子どもも持っている職員ともその日の様子などを共有する事ができています。	活動終了後は必ず振り返りを行い、気づきの点は記録を残すことにも共有を徹底し、次回の活動に活かしている。今後も継続していく。
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15	0	1.職員間で振り返りながら記録しています。	一つのグループに複数の職員配置を基本とし、なるべく固定で配置しているが、曜日で関わる職員が違う児童もいるため、記録に残すだけでなく、口頭での情報共有に加えて視覚から分りやすいように食事形態等は写真で提示し、誰が見ても分りやすいようにしている。記録のデジタル化することで個人情報は十分留意した形で、パソコン上で共有ができるため、早急な対応ができています。	
20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	15	0		複数の職員で確認を行い、相談支援事業所とも連携をとって定期的なモニタリングにて見直しを行っている。保護者の思いも確認しつつ、子どもの実状に合った支援内容を検討しています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	0	1.児童発達支援管理責任者を基本とし、担当職員も参加できるようにしている。	担当者会議には、児童発達支援管理責任者を中心に児童の担当職員や看護師、心理士など現状をよく把握している職員が必要に応じて参加できるようにしている。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12	0	1.地域の親子教室へ職員を派遣し、密な連携がとれるようにしている。子育て支援部会に参加し、状況把握に努めている。	地域支援の一環として保健師や福祉課職員、教育委員会など必要性に応じて様々な関係機関との連携を適宜とようしている。ケース会議等でも必要に応じて参加を申し送り、相談支援事業所を連携を取りながら対応している。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12	0	1.家族からの情報共有がほとんどであり、今後は、事業所からの連絡体制ができればと思う。 2.保護者と日々の健康状態の情報共有を行っている。	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子どもの支援において、基本的には保護者から必要な情報を聞き取り、専門的な所見や助言が必要な場合は地域の保健師や関係機関との連携を適宜行っている。必要があればケース会議の場を設ける。(看護師も出席する。)
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	10	1	1.リハビリ訓練先とは連絡を取ることができるが、主治医の先生とは保護者の方から情報を取っている。 2.家族からの情報提供をいただいているが、直接の連携は取れていない。 3.医療意見書に基づいて対応している。変化があった場合は職員間で。 4.適宜情報交換を行っている。各所へ出向していくこともあるが、保育園や幼稚園の先生へ来園していただき、療育クラブでの様子も見てもらうことで、より支援がかりやすいようにしている。	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子どもの支援を行う場合、主治医や協力医療機関との連携・情報共有を適宜行うようにしている。今後は更に各種関係機関との連携強化に努めていきたい。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	1.移行支援シートの活用のみならず、年度の変り目でも各所へ出向き、情報交換を行っている。 2.卒園後の子どもの状況把握をもっと充分にできればと思う。	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校等との情報共有を図るために連絡会の場を設けている。公開保育では実際の児童の姿、環境や関わりを見てもらうことでより理解が深まってきた。園や学校によつての温度差は少しずつ格差がなくなっている。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15	0	1.移行支援シートの活用のみならず、年度の変り目でも各所へ出向き、情報交換を行っている。 2.卒園後の子どもの状況把握をもっと充分にできればと思う。	移行支援シートの作成は必ず行っている。連絡会にて必要な情報や予想される姿、配慮などを共有している。就学後も適宜学校側との情報共有の場を設けている。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	1	1.コロナの影響もあって、あまりできていない。	今年度は新型コロナウイルス感染予防のために大々的には厳しい状況にもあったが、電話等での状況確認、連携を行っている。今後も連携を図り、当園ならびに地域の質の向上に努める。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	7	1.法人内のこども園ではあったが、他園との関わりが少なかった。	今年度は新型コロナウイルス感染予防のために大々的には厳しい状況にあった。今後は個人情報には十分留意したうえで交流を深められる取り組みを検討したい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	6	5		子ども支援部会等の開催がある時は必ず参加できるようにしている。グループワーク等のない形式であったり、積極的な意見交換が今年度は希薄化してしまっただけ、今後の会への取り組みで地域の実情なども地域で協力して行政へ訴えかけていく。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15	0	1.連絡簿の活用とともに、保護者来園の際に様子をお伝えしている。保護者の困り感等にはすぐに電話等で返事をすると工夫している。 2.母子グループに入らせていただくには特にお母様方とお話をするようにしています。	積極的に保護者とコミュニケーションをとり、お子様の様子や課題の共有が行えるよう心がけている。当面ははじはじに母子保育を必須とする中で保護者と連絡簿や連絡簿の構築に力をつくつていこうと感じる。保護者の状況に応じては関係機関と交えてのコミュニケーションを密に図るようになっている。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	3	7	1.毎月、母親教室の実施はしています。ペアレントプログラム・ペアレントトレーニングはまだ行っていません。 2.保護者の立場でも、どうだったか？とアプローチされていると思う。	家族支援プログラムとして月に一回の頻度で「母親教室」を実施している。母親教室では、各自でテーマを付けて心理士による講話や情報共有を行っている。一方でペアレントトレーニング等の専門的なプログラムは実施できていない為、今後専門性を高め、より良い支援につながるよう取り組んでいきたい。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	1	1.利用前に必ず説明を行っている。	利用契約の際に説明を行っている。利用者の皆様に十分に納得していただくため利用していたために今度も丁寧に取り組んでいく。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14	1		これまで「児童発達支援が提供すべき支援」に基づいて計画の作成と説明を行い、その上で保護者の皆様に同意をいただき支援を実施している。今後もひとりひとり丁寧な説明を心がける。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	15	0	1.分からない際は担当の保育士の先生につなぐようになっています。 2.実際に自分相談を受けることは少ないが、きちんと、電話または、場合によっては、時間を設けて相談を受けている。 3.送迎時などの話の中で保護者の方と話をすることができています。 4.自分だけで処理できないことは主任や他の職員と相談している。	月一回の母親教室にて丁寧に対応できるよう心がけているが、個別での対応が必要な事も多く、場合によっては複数の職員で対応できるようにしている。(意見のやり取りは、連絡簿の構築に力をつくつていこうと感じる。保護者の状況に応じては関係機関と交えてのコミュニケーションを密に図るようになっている。)
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	3	1.毎月、母親教室を開催しています。 2.母親教室を開催する際はお手紙をさせていただきます。 3.コロナで、交流会など人数設定をして開催するなど行っている。	親の会は休止しているが、保護者参加型の行事や交流会の場を設け、地域別や年齢別で振り分けを行うなど就学を見据えた支援を行っている。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	15	0	1.相談事があった際は担当の保育士の先生や主任の先生に相談をするようにしています。	各相談や申し入れについては必ず責任者と担当職員が対応し、施設・法人全体で共有できる体制を整備している。利用契約を行う際にも重要事項説明書にて体制について説明を行っている。今後もそのような体制を整備されていることを周知に努める。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	1	1.ホームページ上での発信により、いつでも見られるようになっている。 2.おたよりを毎月話し合っで発行しています。	毎月、園より「おたより、献立表」等をホームページにて掲載している。月ごとの活動内容や行事予定が一致に届かなくて、必要に応じてメールにてお知らせを返信している。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	15	0		個人情報の取扱いについては十分に注意して業務を行っている。情報が記載されている書類は鍵付きのキャビネットに保管し、パソコン上のデータもセキュリティをかけている。
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	0		子ども達の育ちに合わせて分かりやすい、具体的な声かけを心がけている。また、言葉だけでなく、目で見て分かりやすいように絵カードを用いて伝える等の工夫をしている。今後は、子どもももちろん、保護者との意思の疎通や情報伝達が行える取り組みをひろげていく。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	7	1.コロナのために招待することは難しいと思うが、大層で野菜販売など園にメールで知らせたり、工夫されている。 2.今年度はコロナのためあまり交流できていない。	地域に開かれた事業を行うために公開保育等の行事で参加したい。見学は希望があれば状況に応じて行えるように体制を整えている。事業の特性上、個人情報の取扱いに十分注意している。一般の地域の方々に開放する機会が少ない。しかし、今年度初の試みで園内にある就労支援事業所と連携し、地域の方も立ち寄れるよう野菜販売を行った。足をとめていく方も多かった。
	非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	15	0	1.毎月避難訓練を実施している。
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		15	0	1.月に一回災害に応じた訓練が実施されている。	毎月、様々な災害を想定し避難訓練を実施している。また、消防等とも連携をとり、消火器の使い方も適宜指導している。今後は危機管理の意識と発生時に適切な対応が行えるように毎月の訓練に高い意識をもって取り組んでいく。
43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握している		15	0	1.利用前の見学時点に確認するようにしている。服薬が必要な場合は手帳依頼書を提出していただく。 2.全体でもてんかん発作など情報共有をしている。	利用契約や支援計画を策定する段階で服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握している。合わせて疾患の有無も必ず聞き取りを行い、記録に残すことを徹底している。情報の把握不足も見受けられるため、種々の職員で共有を図る。
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		15	0	1.各園前に医師による指示書の提出を依頼。指示に沿って給食を提供している。	医師の診断書や指示書を必ず保護者に提出いただき、それをもとに除去食の提供、特別食の対応を行っている。アレルギーのあるお子さんが施設を利用する際は栄養士や調理員、現場職員等必ず情報共有する体制をとっている。安心、安全な給食を提供できるよう、今後も徹底していく。
45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		13	0		事例があった場合は必ず報知や申し送り等の場でも共有し、記録を残す体制を整備している。また、各事業所のヒヤリハットのケースも法人本部より周知があり、各現場でも対応している。
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		15	0	1.「虐待かもしれない」と感じたら先生方に相談・共有をさせていただいてます。 2.法人研修(園内研修等)で共通理解している。	法人研修(園内研修)にて虐待防止について共通理解を図る取り組みを行っている。保護者の声を聞く機会を設けたり、必要性に応じて地域の保健師さん等と連携が図られるようになっている。虐待を未然に防ぐべくも、啓発活動を充実させていく。
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		8	1	1.仕組み自体把握していない。	これまで身体拘束が必要となるケースがないため、保護者への聞き取りやアセスメントを行い、身体拘束の必要性が出た場合は、子どもや保護者に事前に十分な説明を行い、了解を得た上で児童発達支援計画に明記している。